

令和元年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。
利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。
今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。
なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated]をご覧ください。

実施日：令和元年11月1日（金）
回収日：令和元年11月14日（木）
対象：生徒（回答数775名 回答率95.7%）、保護者（回答数779名 回答率96.2%）、教職員（60名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

アイコン表記のルール 80%以上 60~79% 40~59% 40%未満

10%以上 0~9% 0%未満

Table with 5 main columns: 実現度調査 質問項目, 良好ととらえている割合, 前年度比, 分析, 改善策. It contains 13 rows of data, each with sub-rows for 生徒, 保護者, and 教職員, showing percentages and trends for various school activities and facilities.

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒 71% → 3%		肯定的な回答が、教職員41.7%、保護者62.5%、生徒70.7%であった。例年と同様に生徒・保護者と教職員の差は依然として大きいものがある。保護者の肯定的な回答については、年々低下しており、家庭学習の定着には至っていないことがうかがえる。	各教科で実施している学習オリエンテーションをとおして、1年次早期より「学習→授業→復習」という学習サイクルを徹底させる。部活動だけではなく学業に対する高校生活の目的意識を確立させる。具体的な方策として、課題や小テストなどを授業と連動させること、スタディサポートの結果を分析して効率の良い学習法を確立させることなどが考えられる。また、課題は生徒の負担を正確に把握した上で適量を与えるとともに、質的に工夫された内容になるようにする。
	保護者 63% ↓ -2%			
	教職員 42% → 9%			
⑮ 進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒 81% ↑ 12%		肯定的な回答が、教職員51.7%、保護者63.8%、生徒81.2%であった。生徒の肯定的な回答が前年比12%増と飛躍的な増加が見られた。また、教職員の肯定的な回答も前年比6%増となっている。生徒の学力差を正確に把握し、成績上位層に対して高度な学習内容を与えていることに連動して、すべての授業において全般的にレベルが上がっているようだ。	昨年度に引き続き、授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていく。また、課題や小テストなどをうまく組み合わせて学習内容を確実に定着させるとともに、成績上位層には発展的な内容に積極的に取り組ませる。総探・特活委員会を中心に、1年次からの探究的な学習活動と進路学習の実践に取り組む。
	保護者 64% → 1%			
	教職員 52% → 6%			
⑯ 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒 82% → 4%		3年間を見通しながらも、年度ごとに状況や年次の色をつけながら指導しているが、共通理解が得られていないかもしれない。	今一度、目標設定とその達成に向けた進路指導のあり方について検討していき、情報発信も含め、広く共有できるように心がけたい。
	保護者 73% ↓ -1%			
	教職員 70% ↓ -5%			
⑰ 「総合的な学習の時間」における進路指導が充実している。	生徒 83% → 0%		良好と捉えている保護者の割合が低くなっている。各年次に必要な学習を設定しているが、保護者に対する内容の説明が不足していることが原因と思われる。	年次毎に必要な内容の充実を図っていく。名称も総合的な探究の時間と変わり、生徒の進路選択や獲得させる力を整理して、計画的に充実を図ってきたい。
	保護者 71% ↓ -4%			
	教職員 77% ↓ -1%			
⑱ 個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒 78% → 2%		卒業後の進路が多様校である本校にとって、個に応じた指導を行っているが、1・2年次では全体指導が中心なので、個人々々に対する丁寧な対応が見えにくいのかもかもしれない。	1・2年次では全体的な指導が中心にはなるが、三者面談だけでなく、二者面談などの進路カウンセリングを通して、各生徒の進路希望に合わせた声かけは引き続き行っていきたい。
	保護者 68% ↓ -2%			
	教職員 80% ↓ -4%			
⑲ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒 75% ↓ -4%		保護者と教員からは、肯定的な意見が多い。校内美化・活動に対して一定の評価があると考えられる。しかし生徒は75%と低くなっている。これは、生徒総会で改善要求があるように、トイレの劣化による老朽化にも原因があるように思われる。	日常清掃の徹底が影響していると考えられる。一方、校舎の老朽化に伴い、掃除による美化に限界もあるので、業者による清掃や校舎の改築等の対応も考えていく必要がある。
	保護者 82% ↓ -5%			
	教職員 80% ↓ -4%			
⑳ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒 67% → 3%		授業での活用や、放課後の学習、進路に関する調査利用が多くなっており、学習センターとしての役割は果たしているが、利用状況は保護者には見えにくい。生徒、保護者の良好ととらえている割合については昨年と変わらないが、教職員の割合が7%増えたため、保護者と教職員との認識の差があるように感じられている。利用の拡大について周知を続けて行く必要がある。	授業の活用時や図書館だより発行等を通じ、図書館利用の促進に向けた情報発信を続けていきたい。施設の利便性向上を考慮し、図書館内でさらなる情報収集ができるように、パソコンの増設を考えている。
	保護者 63% → 0%			
	教職員 85% → 7%			
㉑ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒 78% → 1%		肯定的意見が多くおおむね取り組みは評価されている。生徒の健康の保持増進は日頃の指導によるところが大きく、各クラスや部活動で、きめ細やかに配慮されているものと考えられる。	保健だよりで定期的に情報発信をしている。感染症予防については、教室の換気、石鹸や手指消毒液の補充、マスクの提供などを今後も継続していく。
	保護者 79% ↓ -1%			
	教職員 95% ↑ 14%			
㉒ P T A や同窓会活動の充実 に努めている。	生徒 — —		肯定的な回答の割合は、保護者77%、教職員93%になっている。P T A 活動や同窓会活動について行事案内や広報活動を行っていることが、ある程度評価されている。一方で「あまり出ていない」「出ていない」と評価する保護者が約21%になっている。P T A 行事への関心が低く、参加者が少ないことやP T A 行事が周知されていないことなどが原因ではないかと分析する。	P T A 行事への参加案内や活動報告を継続していく。特にP T A 総会や年次P T A 総会等について内容の充実を図り、出席者が増加するように努める。また、P T A 会員研修や環境整備活動についても、参加者が増加するように広報活動を継続していく。
	保護者 77% ↓ -3%			
	教職員 93% ↓ -2%			

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 体験学習（オープンキャンパス参加）をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒 85% ↓ -5%		生徒、保護者の80%程度が肯定的な回答しており、体験学習の意義や内容は概ね理解されていると思われる。	今年度は主に仙台市内の大学へ、生徒の希望に沿った形で実施した。事前準備をしっかりと行い実施した結果、生徒たちの肯定的な意見は85.1%と高いものであった。この体験を踏まえ、今後はより一層の進路意識の向上に繋げていきたい。
	保護者 79% ↓ -3%			
② 継続的に週末課題や教科ごとの課題を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒 83% → 2%		生徒の83.4%が肯定的に回答していた。しかし、保護者の肯定的な回答は71.4%と生徒と10%以上の開きがあり。またまた、保護者の目から見て、家庭学習が習慣化されていない現状が窺える。	週末課題の提出状況の継続的な定着を目指す。普段の家庭学習時間を向上させるための、生徒の意識改革につながる手立てに取り組んでいく。
	保護者 71% → 2%			

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 大学見聞会をとおして、様々な大学情報に触れることで、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒 87% → 4%		生徒の86.6%が肯定的な意見であり、「進路選択の参考になった」と感じている生徒が多く、有意義な進路行事の一つとなっている。保護者の肯定的意見は、保護者対象の進路講演会等の実施によるものと考えられる。	さらなる有意義な行事として定着させられよう、他の進路行事との相乗効果を高め、更なる教育効果につなげられるようにしていく。
	保護者 70% ↓ -13%			
② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題教科ごとの課題の実施が継続的に図られている。	生徒 88% → 7%		生徒の88.1%、保護者の78.3%が肯定的意見であり、概ね週末課題に取り組むことが習慣化しているが、一般受験に向けた自学自習までには至っていないと思われる。	週末課題の提出状況は概ね良好であるものの、一部では定着がしていない生徒も見られる。進路目標に向けた強い動機付けを持たせ、学習習慣の定着を目指す。
	保護者 78% ↓ -1%			

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣呼びかけを行っている。	生徒 75% ↓ -5%		生徒75%・保護者75%が肯定的な意見であった。昨年と比べると若干ではあるが、保護者共に肯定的な意見が減少した。対象が希望受講した生徒に限られるため、肯定の回答が若干ではあるが減少したと考える。	課外講習の期間や時間を拡充することが改善策として考えられるが、部活動やその他の業務との兼ね合いがある。本校の実情を踏まえれば、現状の工夫と個々の生徒に添削指導を行う等の個別指導の拡充も考えられる。
	保護者 75% ↓ -1%			
② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒 83% → 5%		生徒83%・保護者80%が肯定的な意見であり、昨年度と比較すると若干ではあるが、肯定的意見は生徒・保護者共に多くなってきている。「総合的な学習の時間」の中で、希望進路別に「進路研究」を行ったために実感が高まったのではないかと考える。	「総合的な学習の時間」を活用しながら、時宜を得た指導を心掛けてきたが、進路先が決定した生徒は進路学習へのモチベーションが大きく下がることもあり、指導が難しい。模試の結果等を活用し、生徒個々への働きかけを強めることができれば、改善できる部分はあろうと思う。
	保護者 80% → 6%			

